

平成 28 年(2016 年)熊本県熊本地方を震源とする地震  
非常災害対策本部会議(第31回)及び  
北海道内浦湾を震源とする地震に係る関係省庁災害対策会議  
議事録

日時:平成28年6月16日(木)17:14~17:34

場所:合同庁舎8号館3階災害対策本部会議室

1. 非常災害対策本部長 発言

(防災担当大臣)

- 先ほどの北海道の地震は、震度6弱を記録した場所がありましたが、軽傷 1 名と伺っている。道路についても、点検中の道路があると伺っているが、情報収集を万全を期してやっていただきたい。
- 昨日、熊本に視察に行ってきた。
- 南阿蘇村の阿蘇大橋の土砂災害現場の二次災害防止対策を見てきた。避難所の集約状況、環境改善の状況、罹災証明の発行、応急仮設住宅への入居といった状況を見てきた。また、県知事を始め、被災した町村長との意見交換も行ってきた。
- 避難者は、昨日で 6,241 名まで減少し、集約、環境改善もずいぶん進んでいて、エアコンはほとんど入っており、間仕切りもかなりできていた。
- 罹災証明は、一次調査に基づいて、12 万 9 千件を処理している。ほぼ二次調査に移行したと考えている。
- 民間賃貸は、7 月上旬までに 2 千戸を超える追加の見込みと伺っている。建設仮設についても、7 月下旬までに 3 千戸を超える状況なので、8 月までにはなんとか避難所の方に移っていただきたいと考えている。
- 被災地の町村長さんとの意見交換を踏まえ、二次調査が一次調査と比べても時間がかかるので、二次調査をなるべく速やかに行うための、引き続きの応援の要請をされている。必要な人数の応援をお願いしたい。
- 国道 57 号を始めとするインフラの復旧が、社会経済の復旧の大前提になる。昨日、崩落現場を見せていただいた。まだ、二次災害の防止対策に全力を挙げているという状況だが、これはかなり難しいとは思いますが、暫定で構わないので見通しを出していただきたい。何らかのメッセージを国の方でもしっかり出して行きたいと思うので、いつ頃までに、どこまで、どんな感じで復旧というものをしっかり出して、それに向けて国も、県も、地元も動けるという形にしていきたい。状況を見ていると、かなりハードル高いとは分かってはいるが、それでも見通しを出すというのは大事だと思うので、よろしく願いをしたい。
- 梅雨に入り、気温も大分暑くなったので、各省庁は引き続き被災地にしっかり寄り添った対応をお願いしたい。

## 2. 被害状況及び各省庁の対応状況について

### (防災担当大臣)

- 昨日の件で、まず1つは、知事及び市町村長との意見交換の中で、財政的な支援の話があった。医療施設、社会福祉施設、学校、保育所といったものに対する支援をお願いする。
- 私立の学校、保育所、その他について、公立と比べてなかなか後ろ盾が乏しいという話があった。予備費もあるので、民間の医療施設、社会福祉施設、学校、保育所といったものに対する支援について、もう少し積極的に行っていただきたい。
- それから、解体事業者が不足し、なかなか被災家屋の解体が進まないという話があったので、何か対応策があればお願いしたい。
- もう1つは、難病を抱えていらっしゃる方、障害をもっている方が、避難所やあるいは避難所に行けずに自宅で、やや厳しい状況にあるという話があるので、福祉避難所、二次避難所へ誘導の徹底をお願いしたい。ただ、働き場所との関係や家族あるいはサポートする人との関係で、なかなか遠くへ動けない、今あるところを動けないという難しい事も承知しているので、きめ細かな対応が必要になってくるかと思うが、障害者あるいは難病をもっている方といった要支援の方について、きめ細かな誘導の徹底をお願いしたい。

### (気象庁)

- 本日の14時21分にマグニチュード5.3の地震を内浦湾で観測。深さは11km。発生メカニズムは逆断層型。
- この地域の地震の特徴を踏まえると、同程度の規模の地震が続発する可能性もあることから、気象庁では、当分の間は同程度の規模の地震に注意するよう呼び掛けている。
- 地震活動のその後の状況。この地震を入れて15時25分までに震度2が1回、震度1が1回発生。
- 函館エリアの天候があまり良くなく、17日午後6時までの24時間に多いところで70mmの雨が予想される。
- 大雨警報、土砂災害警戒情報の運用基準を7割まで引き下げて、しっかり対応していく。

### (消防庁)

- 人的被害軽傷1名。特養ホームで天井パネルが一部落下し、頭に怪我。特養ホームの車で病院に行き、治療を終え、戻られている。
- 川汲町界隈で数件建物の窓ガラスが割れている、あるいは天井パネルが落ちているのが数件。

### (国土交通省)

- 一部、点検のため通行止めとなっていた函館新道など3つの自動車専用道路について、点検を終え、15時45分に通行止め解除。

(防衛省)

- 14日の閣議決定で決まった予備費の使用について、総額469億円。自衛隊の部隊が実施する災害派遣活動等に必要な経費で347億円。自衛隊施設等復旧に必要な経費で123億円。

(総務省)

- 被災自治体への職員派遣は16日現在650名。うち罹災証明関係で340名。
- 今後も、罹災証明発行のための被害認定の二次調査に必要な職員を含め、被災自治体のニーズを的確に把握し、必要な応援職員の確保をしていきたい。

(厚生労働省)

- 降水量の増える6～7月に懸念される土砂崩壊による災害防止のため、建設団体宛て、災害対策の徹底を要請すると共に、労働局に対し事業所の指導の徹底を通達。
- 水道は残り2件。
- 雇用調整助成金について、説明会を開催する予定。
- 今後とも熊本県からの具体的な要望を受けながら、必要な支援が行えるよう、関係省庁と調整していく。

(財務省)

- 予備費については、出来る限り前広に対応していきたい。

(農林水産省)

- 6月14日に復旧予備費第2弾として、被災した山地の復旧整備と被害木の伐採及び民家等に被害を与え得る被災山地の緊急復旧工事と合わせて9億6千万円が閣議決定された。

(経済産業省)

- 三菱電機パワーデバイス製作所においては、5月31日に震災前の生産能力に復帰。
- 中小企業の金融支援におけるセーフティネット保証4号について、6月3日に福岡県が指定され、九州7県全てが対象となった。
- 予備費の迅速な執行について、5月31日付で、被災地域販路開拓支援事業、6月1日付で商店街震災復旧等事業の公募を開始。また、説明会等を順次開催。

(国土交通省)

- 応急仮設住宅については、16 市町村で 3025 戸の建設に着手。このうち 272 戸が完成。
- 阿蘇大橋地区について、直轄で斜面对策を実施中。現在、斜面の上の方に不安定土砂がかなり残っているため、その調査を実施中。なるべく早く見通しを示せるよう努力していく。
- 57 号について予備費を活用し、現地の北側に別ルートで整備。
- がけ崩れ対策について、宅地擁壁等に対する対策が行えるよう特例措置を適用することとなった。
- 空港関係については、6 月 2 日から国内線全便が運航再開。

(防災担当大臣)

- 阿蘇大橋、57 号について、いつ頃に目途が出るか。

(国土交通省)

- 現在調査中であり、土砂の状況を抑え、有識者の意見を聞き、なるべく早く出したいと考えているが、現段階ではいつと申し上げることはできない。

(防災担当大臣)

- 暫定なので、前後するのは仕方ないとしても、いつ頃見通しを出せるか。目標があれば地元も弾みがつく。昨日視察し相当大変なのは理解している。二次災害を出さないように気を付けながら丁寧に対応していただきたい。

(国土交通省)

- 検討していく。

(環境省)

- 災害廃棄物の処理について、災害廃棄物処理実行計画について、熊本市は 6 月 14 日公表。熊本県全体は 6 月 21 日に公表予定。
- 処理すべきがれきの量は、100 から 130 万トンとされていたが、195 万トンになる見込み。
- 解体事業者の関係であるが、廃棄物処理業の許可を受けている業者だけでは足りないため、早い段階で建設業者も参加してもらうため、廃棄物処理業者と建設業者で話し合いの場をもっていただく予定。それにより、業者不足にはならない見込みであるが、地域によっては、配分が十分でない可能性もあるので、ご指摘も踏まえ、精査していきたい。

(文部科学省)

- 私学の災害復旧について、激甚災害の指定により 2 分の 1 補助が可能となっているが、現

在、さらに経常費補助で嵩上げをできないか、財務省と調整中。

(防災担当大臣)

- 財務省には、その点についても様子を見ながら調整をお願いしたい。

(防災担当副大臣)

- 豊肥線は、大分方面から阿蘇に入ってくる唯一の鉄道であるので、こちらについても再開見通しが分かったら教えていただきたい。

以上